

天野良美 『地方銀行の地域密着経営について』

【研究テーマについて】

この論文は「地方銀行にとって、地域に貢献するとはいったいどのようなことなのか」をテーマとして、福岡県にある地方銀行の地域貢献活動を事例に考察しています。

企業の社会責任とか社会貢献という概念は日本でもブームの観を呈していますが、何をもちて社会責任を果たしたと言えるのか、何をすれば社会貢献したことになるのか、抽象的には答えられても、具体的にはっきりとした基準を示すことはなかなか難しいのではないのでしょうか。それは恐らく、それぞれの産業や企業の持つ固有性、社会的・時代的な背景、政策動向、地域特性などに大きく規定されるからだと思います。したがって、企業の社会責任や社会貢献のあるべき姿は、一般的抽象的な議論にとどまることなく、具体的な状況（コンテキスト）に即して考察してはじめて意味を持つと言えましょう。

筆者の天野さんは福岡県の地方銀行に就職が内定していますが、地方銀行の地域貢献とはいったい何かを課題としました。何よりも、産業と地域をしばりこんでテーマを設定したことが良かったのだと思います。

地方銀行をめぐる地域貢献を考える際に、金融機関全体が置かれている状況、なかでも地元中小企業への融資 特に貸し渋り・貸しはがしなどの問題、リレーションシップ・バンキング政策といった背景は避けて通れません。この論文では、これらの背景を省略せず丁寧に概観したうえで、地域貢献のあり方を考察しており、大変好感が持てます。

この論文で最大の主張は、お祭りやボランティア活動のような社会貢献活動ではなく、「地域の人々と一から苦しみ作り上げていくような貢献も必要なのではないか」（29 ページ）という問題提起にあります。これは具体的には NPO やコミュニティビジネスなどに融資を行うという、“本業を通じての社会貢献”を意味しています。

お祭りやボランティア活動のような社会貢献活動と、本業を通じての社会貢献は、どちらがより優れているといった比較はできませんが、金融機関には本業を通じての社会貢献を今以上に積極的に進めるべきだという主張は充分理解できるどころですし、重要な問題提起だと思われます。コミュニティ金融に関しては、日本では労働金庫や信用金庫などが既に導入していますが、地方銀行でも場合によれば可能かもしれません（現時点での実現可能性は必ずしも高いとは言えませんが）。今後の可能性に期待したいものです。

【研究方法について】

歴史やデータなどの基礎資料、地方銀行の出している情報を丁寧に調べ、整理したところがこの論文の良さでしょう。

福岡県内の地方銀行の事例に関しては、ウェブサイトの情報に頼りがちで、活動内容を表面的に伝えるにとどまっているところがやや弱点ですが、筆者が銀行に就職してから自分の目と耳で実態を知ること、補っていけることと思います。